

〈接種を忘れやすいワクチンはこちら〉

ワクチンの種類	接種年齢
MR2期	保育園・幼稚園の年長さんの1年 (3月31日まで)
日本脳炎第2期	9歳～12歳 (13歳の誕生日前日まで)
3種混合もしくは 4種混合の第2期 (ジフテリアと破傷風の 2種混合ワクチン)	11歳、12歳 (13歳の誕生日前日まで)
子宮頸がん予防ワクチン (HPVワクチン)	小6～高1相当(3月31日まで) ※女子のみ



予防接種はいまが受けドキ♡

計画的に接種をしましょう

予防接種
お忘れではないですか？

お子さんが赤ちゃんのときにたくさん頑張った予防接種ですが、年長さん、小・中学生になるともう一度接種が必要なワクチンや、新たに接種できるワクチンがあります。

定期接種の期間を過ぎると費用が全額自己負担となり、また、寒くなってくると感染症の流行で体調を崩したり、インフルエンザワクチン接種を優先したりなど、予定通りに接種できないこともあるかもしれません。中学生・高校生は部活の大事な試合や受験などの予定はいかがでしょうか。スケジュールを確認して、早めの接種をお勧めします。

『若いから大丈夫！』じゃない『がん』がある！

接種を忘れやすいワクチンの中でも、HPV（ヒトパピローマウイルス）は、若い世代の女性のがんの中で多くを占める子宮頸がんの原因となるウイルスです。日本では毎年1.1万人の女性が子宮頸がんにかかっており、妊娠・出産などその後のライフスタイルに大きな影響を及ぼす可能性があります。

子宮頸がんはワクチンで予防ができる唯一のがんです。ワクチンによって2～3回の接種が必要であり、接種完了までには約6か月かかります。ワクチンの詳細は県ホームページをご覧ください。



▲福岡県ホームページ

早めの接種を

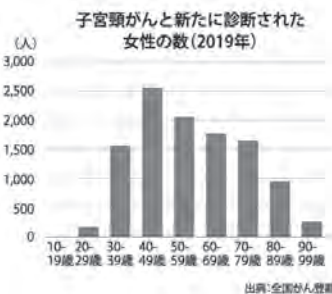
定期接種の期間を過ぎるとHPVワクチン1回につき、約1万6,000～3万円の費用がかかります。希望される人はできるだけ早めに（遅くとも9月までには）1回目の接種をはじめましょう。

子宮頸がんワクチン未接種の27歳まで（平成9年4月2日～平成20年4月1日生まれ）の女性はキャッチアップ制度の対象です。案内を送付していますのでご確認ください。



▲厚生労働省ホームページ

〈思っていたより多い!? 子宮頸がん〉



※1クラス約35人の女子クラスで換算
出典：厚生労働省 HPV ワクチンに関するリーフレット

〈接種スケジュール〉



出典：厚生労働省 HPV ワクチンについて知ってください パンフレット
※接種間隔などの詳細は厚生労働省ホームページをご覧ください。

■問い合わせ先

町こども家庭センター「はぐうる」
☎ 0963-22995(直)